

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	言語教育研究センター
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 全学的に学生の英語運用能力向上を目指し、英語インテンシブ・プログラムのクラス数を3年以内に2割増加させる。	→多言語・多文化の視野に立った学部横断的な言語教育のメニューを提供する。		A			
2. 英語、フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮語、スペイン語、日本語の教育と研究に関する共同研究の実施。	→「言語コミュニケーション教育ならびに言語教育のカリキュラム・教材の開発と研究」をテーマとした、各言語部会における共同研究成果の公表、『センター研究年報』の発行。言語教育に係る専任教員の成果公表、『言語と文化』の発行。		A			
3. 選択必修科目としての中国語、朝鮮語、スペイン語、日本語の全学提供体制を見直す。	→全学提供体制をとる言語の体制の充実・改善。(履修希望者数、開講クラス数を指標として)		B			
4. 多言語・多文化の視野に立った学部横断的な言語教育のメニューを提供する。	→12種の選択言語の提供。インテンシブ・プログラムを含む全学的な言語教育活動を紹介するパンフレットの作成と配布。		A			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価			
		2010	2011	2012	2013
1. 『英語コミュニケーション文化』副専攻プログラム履修者の修了率を、現行の2倍に高める。	→1.履修者のプログラム修了率	B			
	→				

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 (理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ <input checked="" type="radio"/> 理念・目的を設定している <input type="radio"/> 理念・目的を設定していない (理念・目的) 言語教育を通じて、国際人として活躍しうる言語運用能力と異文化に対する優れた理解能力を有する人材を育成する。 (説明) 英語、フランス語、ドイツ語のインテンシブ・プログラムやMDS (英語コミュニケーション文化) を実施している。また、各語種ともレベル別クラスを編成し、各学生毎の言語運用能力の差異に対応している。設定されている理念目的については、履修学生の言語運用能力の着実な向上から、適切であると判断する。
	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員 (教職員および学生) に周知され、社会に公表されているか。 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない (説明) 各プログラムは入学時オリエンテーションを実施し、英語インテンシブ・プログラムについてはさらに2回の履修ガイダンスを実施し、毎回数百名を超える学生が出席しており、十分に周知徹底されている。センターの各言語のインテンシブ・プログラム、MDS、その他の多くのプログラムは、センター研究年報の発行、本学のホームページや大学の広報誌 (空の翼) などを通して社会に公表している。
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 原則月1回開催される各言語の教育委員会において、当該プログラムの理念・目的をさらに徹底すべく、たえず次年度クラス数の設定やカリキュラム改訂などが検証されている。特に、規模の大きい英語インテンシブ・プログラムおよびMDS (英語コミュニケーション文化) については、毎月、英語担当副長、英語コーディネイター、センター事務室担当者、常勤講師コーディネイターによって構成されるLC Meetingにおいて緻密にプログラムを検証している。
その他	

《評価指標データ》

本学の育成した人材 (卒業生) に対する社会 (企業) の評価
 卒業生がどの程度スクールモットー (マスタリー・フォア・サービス) をどの意識しているか 【基本的な基礎データ】
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率 【基本的な基礎データ】
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 理念の周知について (1) ー理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
 理念の周知について (2) ー総合コース「『関学』学」の履修者数

★ 追加データがあれば追加してください。

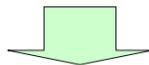
◎ 効果が上がっている事項 ※ 目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注) 出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。	
小項目0.0.1	履修学生の言語運用能力ならびに多文化理解は着実に向上している。IEFLの2名増員により、英語インターミディエイト・コースのクラスを2011年度秋学期より2クラス増やす予定である。
小項目0.0.2	各履修ガイダンスには多数の学生が関心を持って集まり、インテンシブ・プログラム等に対する認知度が向上した。
小項目0.0.3	各プログラムの応募状況は徹底的に検証され、次年度募集に活かすことができている。MDSについては、2011年度より、カリキュラムを大幅に改編し、学生がMDSを履修しやすくした。2011年度は13名がMDSに入る予定である。
その他	
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注) 出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。	
小項目0.0.1	IEFLコーディネイターの専任化と契約条件の改善を検討する。また、良質の講師を確保するために、講師の再雇用制度の導入、任期の定めのない契約教員の導入を求めてゆく。
小項目0.0.2	比較的参加度の低い学部に対して、さらにプログラム内容の周知徹底を依頼する。
小項目0.0.3	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価】(2)改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目0.0.1	
	小項目0.0.2	
	小項目0.0.3	
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目0.0.1	
	小項目0.0.2	
	小項目0.0.3	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

- 言語教育研究センターの理念・目的の設定、公表は適切になされ、それに基づいた諸プログラムが着実に実行されているようであり、評価できます。
- 理念・目的の現状説明が一般的な記述にとどまっているため、言語教育研究センターの特質が分かり辛くなっています。
- 「効果が上がっている事項」ですが、小項目0.0.1において「履修学生の言語運用能力ならびに多文化理解は着実に向上している」との記述がありますが、これを裏付ける客観的根拠について述べる必要があります。
- 目標に対して着実に進展しています。
- 目標の進捗評価が「A」のものが多く、着実に取り組まれ実行されていることが伺えます。今後は新たな目標を設定されることをお考えください。
- 理念・目的、周知・公表、検証はいずれもしっかりと実施され、記述も簡潔で適切です。
- 各言語の教育委員会の開催頻度はどのくらいでしょうか。
- 効果が上がっている事項、小項目0.0.1の記述は、「11. 教員・教員組織」での記述内容ではないでしょうか。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

- 小項目0.0.1
基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」
達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」
- 小項目0.0.2
基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」
達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」
- 小項目0.0.3
基盤評価：なし
達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

現状の説明 0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

（説明）英語、フランス語、ドイツ語のインテンシブ・プログラムやMDS（英語コミュニケーション文化）を実施している。また、各語種ともレベル別クラスを編成し、各学生毎の言語運用能力の差異に対応している。本年度は16名がTOEFL-ITP550点以上を取得し、インテンシブ・プログラムを修了している。MDSについては6名が修了した。設定されている理念目的については、履修学生の言語運用能力の着実な向上から、適切であると判断する。